＜様式 11＞（引受教員用）

共 同 研 究 成 果 報 告 書

提出日：　2026 年　8 月　20 日

名城大学　学長　殿

引　受　教　員 （共同研究者）	所 属 ・ 職 名	理工学部　教養教育　准教授
	氏　　名	森口　舞　　㊞
外国人招へい研究員	Mohsin Hassan Kahn　　（国籍：パキスタン　　）	
共 同 研 究 期 間	2026 年　6 月　17 日～　2026 年　8 月　21 日（　2 ヶ月　5 日間）	

共 同 研 究 要 旨	本研究は、英語圏カリブ海地域における補償運動について、メディアが公衆の理解、認識、そして感情的関与をどのように形成しているかを探究することを目的とする。また、メディア表象が、奴隷制、植民地主義、歴史的不正義に関する公共的記憶にどのように寄与しているかを明らかにしたい。この媒介された記憶が、国家アイデンティティ、歴史意識、そして補償論争に対する公衆の関与を形成するうえで果たす役割を分析する。政治学的あるいは歴史学的視点から検討されることの多い問題に対して、コミュニケーション研究の視点を持ち込むことにより、本研究は、メディア・ナラティブがカリブ海地域における補償的正義を求める拡大しつつある運動を、どのように支援し、あるいは複雑化しているのかについて、より深い理解を提供するものと期待される。
共 同 研 究 成 果	期間中、今後の共同研究の基盤を構築することができた。具体的には、事例とする英語圏カリブ海地域における賠償・補償運動に関する先行研究、関連資料および報道資料の収集とレビューを進め、奴隷制や植民地主義の歴史的経験が、現代の補償要求や公共的記憶とどのように結びつけられているのかについて検討を行った。また、新聞報道を中心としたメディア資料の収集を進めるとともに、研究内容や資料の共有、分析方法に関する議論およびミーティングを重ね、それぞれの専門的知見を踏まえながら研究課題の整理と今後の研究計画の具体化を進めることができた。研究は現時点ではなお途上段階にあるものの、共同で分析を進めるための視点や枠組みについて一定の共有を得ることができた。さらに、今後のデータ分析および論文化に向けた役割分担や研究スケジュールについても見通しを立てている。

（提出先：名城大学国際化推進センター）

<様式 12>（外国人招へい研究員用）

共同研究成果報告書

提出日：　　年　　月　　日

名城大学　学長　殿

研究員氏名	Mohsin Hassan Khan	（署名）
研究期間	2026 年　6 月　18 日～　2026 年　8 月　20 日（　2 ヶ月　3 日間）	
引受教員（共同研究者）	所属・職名	理工学部　教養教育　准教授
	氏名	森口　舞　㊞

研究課題名	Mediated Memory and Public Awareness of Reparations in the Caribbean
研究結果	This research examines how the media shape public understanding and engagement with reparations movements in the Anglo-Caribbean. It explores how media representations contribute to public memory of slavery, colonialism, and historical injustice, and how such memory shapes national identity, historical awareness, and public debates on reparations. By bringing a communication perspective to an issue often studied from political or historical perspectives, the research seeks to better understand how media narratives support or complicate the growing movement for reparative justice in the Caribbean. We examined links between the historical experiences of slavery and colonialism, current demands for reparations, and public memory. We are also collecting newspaper articles and held discussions on research materials and methods, helping us clarify the research questions and develop a plan for future research. Although the research is still in progress, we developed a shared framework for joint analysis and established a general plan for the division of work, data analysis, and preparation of a joint paper.

（提出先：名城大学国際化推進センター）